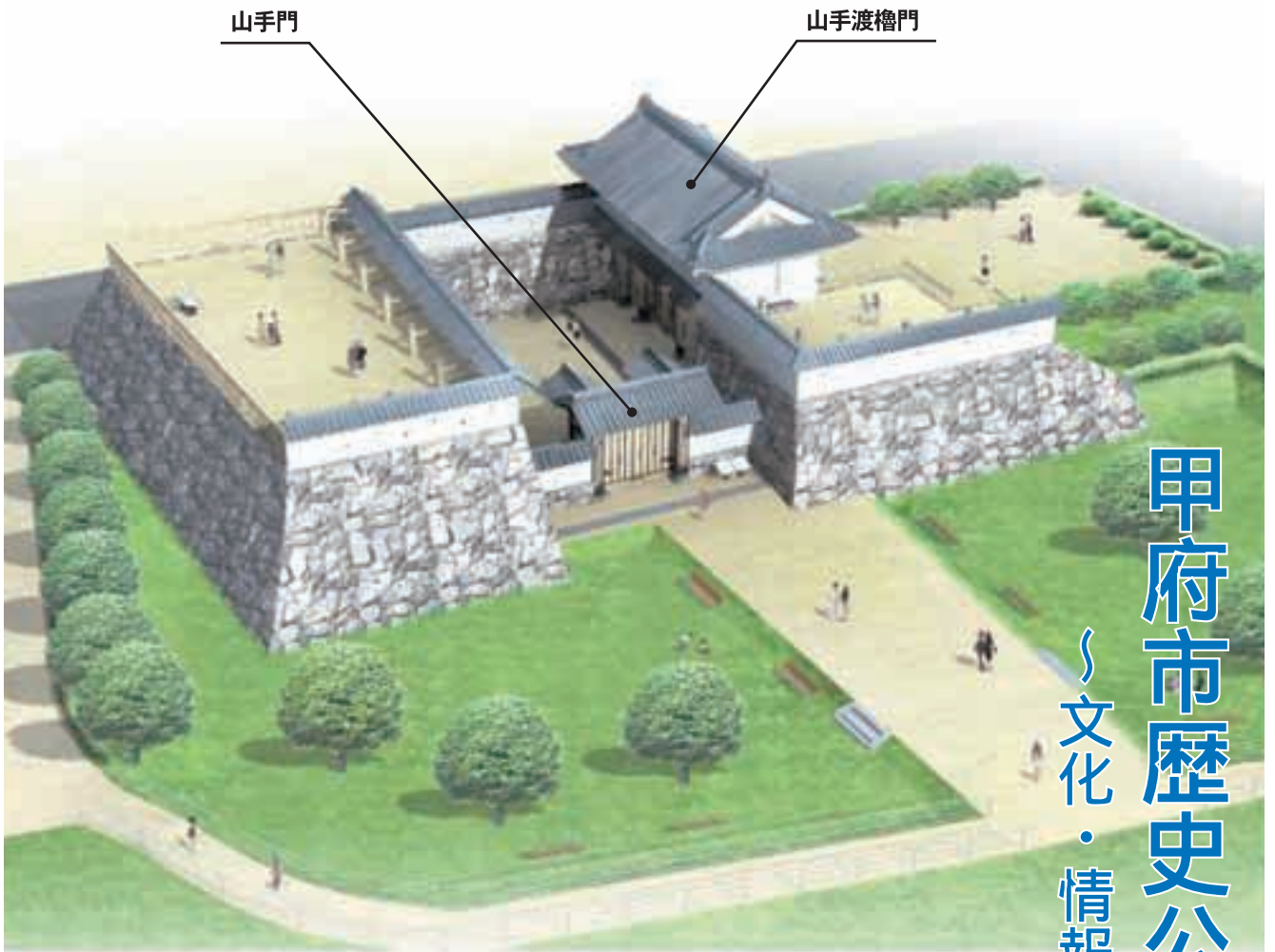


■甲府市歴史公園 山手御門(山手門、山手渡櫓門)整備イメージ■



甲府市歴史公園整備始まる！

〜文化・情報・歴史・交流のまちづくり〜

甲府駅周辺は、市が県都として県内全体の経済や文化の中心的な役割を果たしながら、市民生活の充実・向上と未来を支える都市づくりを行うため、また駅の南北が一体となった中心市街地の活性化を進めるうえで重要な役割を担っています。

市では、市民の皆さんのご協力を得ながら、平成15年2月に「甲府駅北口地区整備構想」を策定し、北口の将来像である「集いや歴史・文化を中心に人・物・情報の豊かな交流が広がるまち」の実現に向け、準備を進めてきました。

そして今回、甲府駅北口地区整備事業の第一弾として、6月22日に甲府市歴史公園築造工事起工式が行われ、整備事業が本格的に始まりました。

甲府市歴史公園

歴史公園建設地は、かつての甲府城内北側に位置し、平成9年の文化財発掘調査の結果、甲府城の石垣の一部が残されていることが確認されました。そのため市が用地を取得し、「甲府市歴史公園」として山手門や山手渡櫓門の復元など、平成19年3月の完成を目指し整備しています。

歴史公園は自然豊かな交流活動の場として、歴史への興味喚起や学習・体験の場であるとともに、舞鶴城公園や(仮称)よつちやばれお祭り広場との回遊性を高め、史跡散策への出発地点とします。



▲甲府市歴史公園築造工事起工式

甲府の歴史を知るきっかけに…



甲府駅北口、歴史公園整備検討委員会
委員長 萩原三雄さん

歴史公園に復元される山手御門は、武田時代から栄えた都市（上府中）と甲府城の内城を結ぶ主要な門でした。城下と城内を結ぶ門のうち、良好な状態で石垣が残っており、市街化されていないなどの条件から、復元できるのは山手御門だけです。

山手御門は、舞鶴城公園からJR線路をはさんで北側に位置しますが、かつてここまで甲府城内であったことを示すものが現在ではなく、山手御門の復元は甲府城の壮大さを示すうえで重要といえます。また、歴史と伝統を尊重しながら史実に基づいて復元されるので、建物自体が最適な歴史・文化資料となり、後世にも文化財として評価されるものになると思います。

甲府のまちは甲府城を核として成り立ってきました。それは甲府城を起点として現在のまち並みが形成されていることなどからうかがい知ることができます。都市というものは生きており、長い歴史の中で動いています。「都市は生きもの」ということが、歴史的史跡が甲府駅北口という近代的都市空間の中に存在することにより、認識できるようになるのではないかと思います。

今回のように史跡を整備するうえで重要なことは、整備後の利用方法です。市民の皆さんの協力やさまざまな活動など、市全体で有効活用しないと史跡は生きてきません。

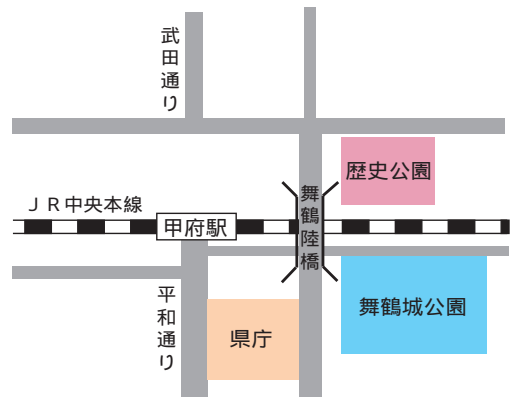
山手御門を復元することにより、歴史公園が甲府の文化発信の拠点となり、観光客はもとより市民が甲府の歴史を正しく知ること、また、歴史・文化に興味を持ち甲府の文化高揚のきっかけとなることを期待します。

山手門、山手渡櫓門って
なんだろう？

歴史公園に復元される山手門は、高さ約6m、幅約5mで、甲府城西側の柳門、南側の大手門と並ぶ甲府城の三門の一つです。
また、山手渡櫓門は、高さ約12m、幅約14mで、城門としての役割のほか、武器を収めておく倉庫の役割も併せ持った門といわれています。



～歴史公園の場所～



甲府城の歴史

甲府城は舞鶴城、一条山城、府中城などとも呼ばれていました。

●武田家滅亡後

甲斐は織田信長の領土となり、本能寺の変以後は徳川家の領土になる

●豊臣秀吉の天下統一後

家康は関東に転封。その後入国した浅野長政・幸長父子ら豊臣系の大名によって築城され、完成

●慶長5年(1600)関ヶ原の戦い以後

浅野家は紀州(和歌山県)へ栄転。甲斐は再び徳川の治下となり、徳川家一門が歴代の城主になる

●宝永元年(1704)

祖先が甲斐出身で側用人の柳沢吉保が城主となる。城の大改修や城下町整備を行い、また、文化や産業振興にも力を尽くし、甲府の最盛期を築いた

●享保9年(1724)

吉保の子、吉里が大和郡山(奈良県)に転封。その後、甲斐は幕府直轄地となり、甲府勤番支配となる

●享保12年(1727)

甲府城大火により、本丸御殿や銅門などが焼失

●明治維新後
損傷の激しい箇所が取り壊される

●明治6年(1873)

廃城令により、内城のみ残して城郭が破却。市街地化が決定

●明治37年(1904)

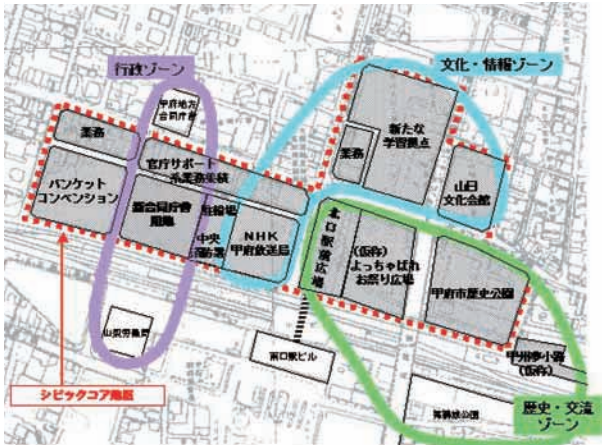
舞鶴城公園として開放
●昭和43年(1968)
県指定の史跡、甲府城跡となる

●平成2年(1990)

舞鶴城公園整備事業に着手
●平成16年(2004)
稲荷櫓完成



■都市機能配置■



問 甲府駅周辺整備課：☎254・0221
 企画課：☎237・5289

甲府駅北口地区は「さまざまな人たちが自由に集える豊かな交流空間の構築」をまちづくりのコンセプトとし、都市機能を文化・情報ゾーン、歴史・交流ゾーン、行政ゾーンと設定し、整備を進めていきます。また、歴史・文化の宝庫である市の特性を生かし、地域住民から観光客まで多くの人たちに開かれた、鉄道や車、そして徒歩でも簡単にアプローチできる、中世・近世・現代を肌で感じられる「歴史ものがたり都市」を目指しています。

今後、北口駅前広場や(仮称)よっちゃんお祭り広場の整備など、賑わいと活力に満ちたまちづくりに向け、順次事業を進めていきます。

■甲府駅北口地区整備イメージ■



■今後の整備スケジュール■

—————▶ 事業中 ▶ 計画中 —————▶ 構想中

	平成 15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22~ 25年度
甲府駅周辺 土地区画整理事業								—————▶
甲府市歴史公園整備		用地取得・設計		整備				
甲府駅北口 駅前広場整備			設計			整備		
お祭り広場整備			設計				整備	
新合同庁舎				基本計画▶	詳細計画		
新たな学習拠点			基本構想・PFIによる整備					
NHK新放送会館			基本計画・構想		設計	整備		
JR甲府総合事務所			設計	建築・解体				
中央消防署移転			設計	建築・解体				